

# 目次

きよじんくん



巨人くん【表紙】

---

# 目次

きよじんくん



ある朝...

---

ある街の早朝  
いつものとおりの静かな朝  
かと思いきや...



ドカン、ガッシャーン、ズドドドド...

---

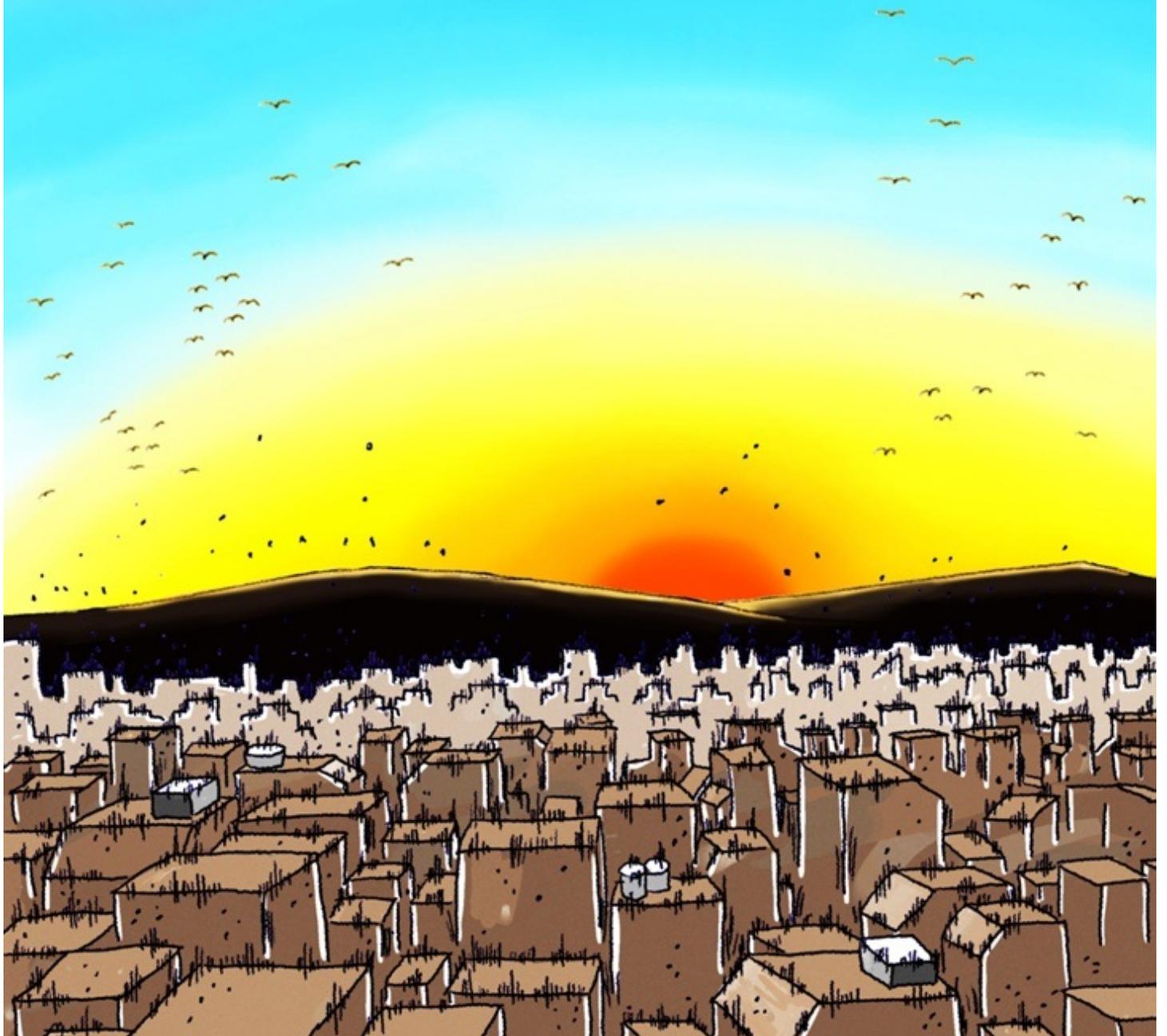
「ふあああああ〜〜〜〜〜」

「ドカン、ガッシャーン、ズドドドドド……」

突然ものすごい音と地響きが街中響きわたります。

「なんだ、なんだ??」

寝ていた人々が起き上がりました。



ふああ~~~~っ、よく寝た~~~~

---

「ふああ~~~~っ よく寝た~~~~」

そこにはとても大きな3人の子どもたちが寝ぼけ眼で起き上がりました。

大きな音と地響きの正体は彼らです。

100メートル近くあるその大きさに驚いた周りの人たちが次第に集まりだします。



んあ？えっ？何コレ？どうなってるの？

---

「んあ？ えっ？ 何コレ？ どうなってるの？」  
周りの野次馬たちよりも本人たちの方が一体何が起こったのか分からず  
ただただ驚くだけです。



3人は普通の子どもです

---

3人の名前はケンジくんとまるおくん、そしてリエちゃんです。  
3人とも、もともとは普通の子どもです。



ケンジくんとまるおくんは家庭の事情があって同じ児童施設に暮らしているので  
小さな頃から大の仲良しです。

リエちゃんは歌を歌える女優を目指しているおませな女の子。

ケンジくんたちと同じ学校に転校したばかりですが、すぐに仲良しになりました。

歓迎パーティー

---



あの朝の前の日のこと  
転校したばかりのリエちゃんを歓迎しようと  
2人は児童施設に招待しました。  
すぐに施設の子どもたちともうちとけ  
仲良くなったリエちゃん。

「ねえ、お姉ちゃんもっと遊ぼうよ~~~~」  
「だめえ~~、こんどはわたしとおままごと」  
みんなとても楽しそうです。  
気が付いたらもう夜中  
夜も遅いので、今日は施設に泊まることにしました。

その日の夜

---

仲良く寝ている3人。

みんなが寝静まった夜中、窓の外から緑色の光が。

その光で起きた3人がみたその先にはとても  
大きな木が緑色の光を放っています。

「なにあれ？」

「こんな木、見たことない」

そこは施設の近くにある丘で、

本来このような大きな木があるはずがありません。



「ねえ、あの木のところへ行ってみない？」

「うん、行こう」

「さんせい！」

ふしぎな木

---

ふしぎな木に行くことにした3人。

到着すると、たくさんの緑色の光がやさしく3人を包み込みました。



「うわぁ～暖かくて気持ちいい…」

「お日様のにおいがする」

「干したばかりの布団にいるみたいだ～」

「ふぁぁ～～～…なんだか眠くなっちゃった…」

「このまま起きたくないやぁ」

「うん、このまま、ねむ…」

「むにゃむにゃ…」



3人ともそのまま眠ってしまいました。

なんじゃこりゃ～

---

朝起きたら自分たちが巨大化しているので3人とも戸惑っています。

「なんじゃこりゃ～＃\$%:\*+¥|> わ、わけわかんねえ～～～」  
混乱するケンジくん。

「もういやだぁ おうちに帰りたいよ～～～」泣きそうなりえちゃん。



そうだ！これは夢なんだ

---

そこへまるおくんがこう言いました。

「そうだ！これは夢なんだ。夢から覚めればなんでもないから落ち込むことはないよ。」

「夢から覚めるまでやりたい放題だ~~~~~！」

まるおくんはそう言うとお手製のコスチュームに身を包みます。



「なるほど、そういうことか~~~~！」

「じゃあ、眼が覚めるまで街中イタズラしちゃおう！！」

ケンジくんとリエちゃんは納得しちゃいました。

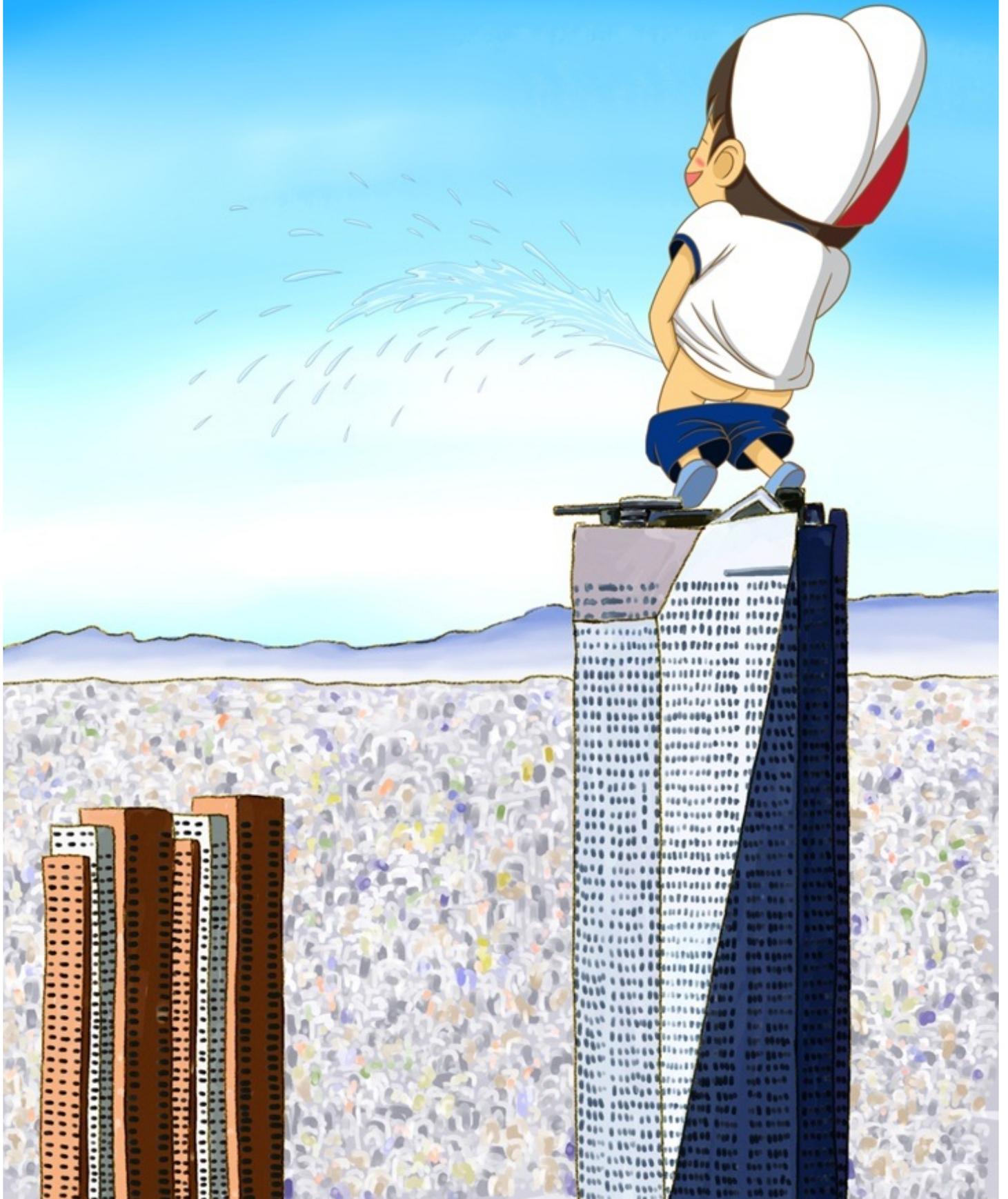


そして3人のイタズラが始まります。

おしっこシャーシャーシャー...

---

六本木ヒルズの頂上まで登って上からおしっこだ〜〜  
シャーシャーシャー...

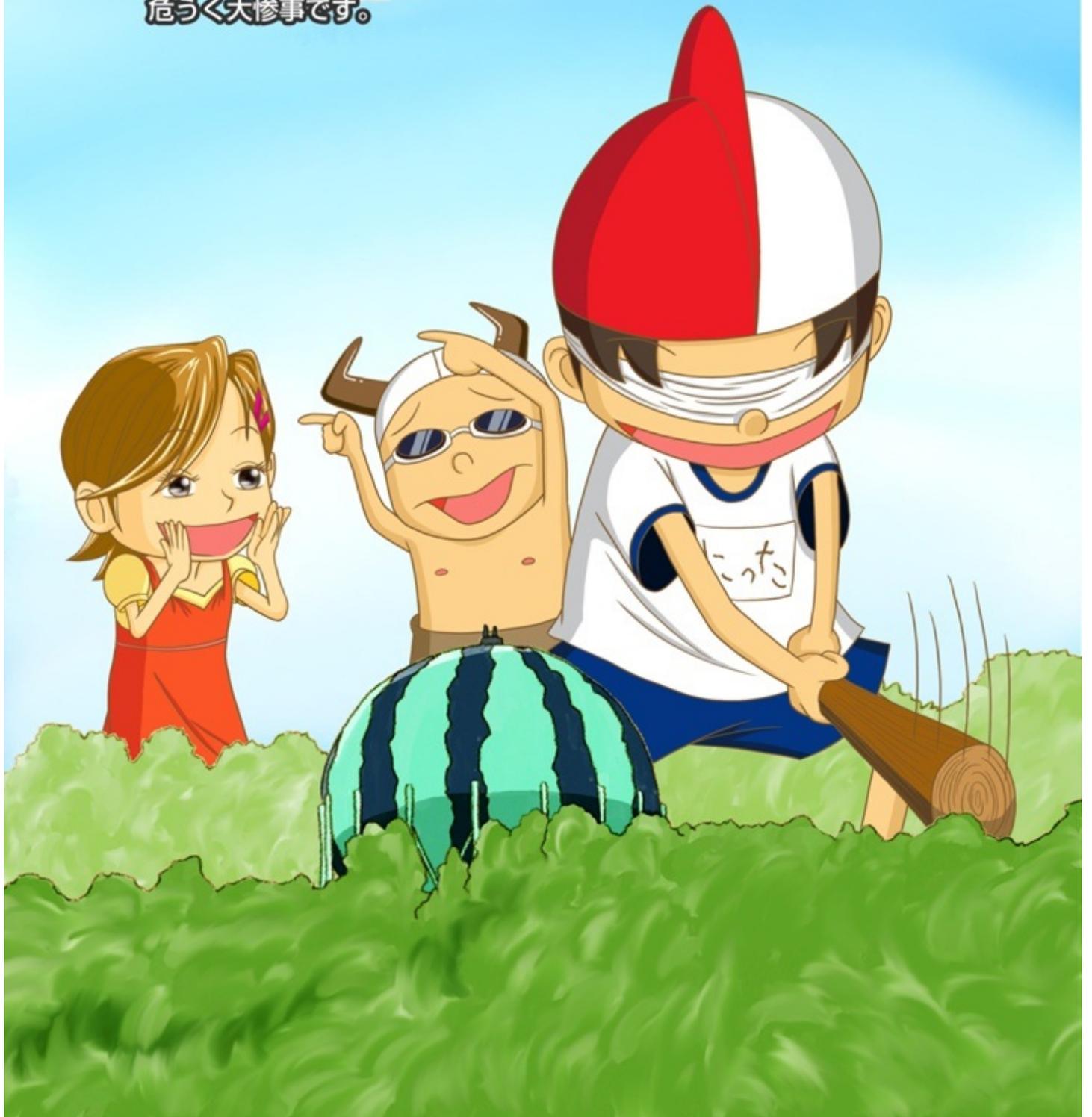




「スイカ割りしよう！」  
「さんせ〜〜い」

ガスタンクをスイカにみたててスイカ割りです。

あぶない あぶない！  
危うく大惨事です。



つかまえろ～～～

---

「ひこうきだ ひこうきだ~~~~」

「つかまえる~~~~」

「わ~~~~い」



穴あき

---

パリンパリンッ パリンッ ガッシャーン  
「キャッキャッキャツ…」

「これ、プチプチより面白いね」

ズ  
ド  
ド  
ド  
ド  
ド  
ド  
ド  
ド  
ド

ズ  
ダ  
ダ  
ダ  
ダ  
ダ  
ダ  
ダ  
ダ  
ダ

大きなビルの窓ガラスを全部指でつついています。



海水浴

---

東京湾で水遊び!!!!

おやおや、まるおくんの様子がお  
おしってもらしちゃったようです。



どうすることもできない大人たち...

---

3人のイタズラが続き、その被害が大きくなっていきます。

「国外追放だ！」

「処分しろ！」

など怒りをあらわにする人もいれば

もともとは普通の子供で、夢だとかんちがいしていることもあり、

同情する人もいて意見がまっぴらつです。

政治家たちも3人に対してどうすべきか悩んでいます。



科学者たちも巨人化の原因を解明できずに悩んでいます。

結局、どうすることもできません。

おじいちゃん登場！

---

そんなことも知らず、3人は調子に乗ってイタズラを続けているその時。

「バカモノ！いいかげんせい」 大きな声と同時に3人の頭にゴツン！

「いた~~~~い」

「なんだよ、いたいな~~~~」

ゲンゴツしたのは3人と同じ大きさで  
頭にウサギの耳をつけているおじいさんでした。

おじいさんの名前は源太(みなもと ふとし)

3人が巨人化する30年近く前から巨大化したおじいさんです。



「痛いか？痛いじゃろ」

「これは夢ではないん、すべて現実起こった事なんじゃ…」

「だから、もうイタズラはやめるんじゃあ！」

すべてが現実

---

これは夢ではない、すべてが現実にごこったこと。  
源も3人とおんなじあの光る木を見てから巨大化したこと。  
30年間巨大化の原因を探した結果、元の大きさに戻れないことが分かったこと。  
この事実を源から聞いた3人はショックを受け泣いてしまいます。

「じゃあ、わたしたちこれからどうなるの？」

「もともにもどりたたい~~~~」

「おうちにかえりたいよ~~~~」

3人とも泣き続けています。

だげど、源は何も言わずただただ3人を見守っているだけだす。



決意！

---

しばらく3人は泣き続けました。  
うなだれるようにガックリと肩を落とすケンジくとまるおくん。  
突然、リエちゃんが涙をぬぐいスクッと立ち上がります。

「このまま泣いててもしょうがないよ。私たちに今できることをよろうよ」

「えっ、何？ イタズラ？」

「ち～が～う～っ！ 今度は人のために役に立つことをしようってことよ」

「うん、でも、その前に今までのイタズラをみんなにあやまろう」

「うん、そうね」

「えらい！よく言った。ワシも老体ながら手伝いぞ」

3人の決心に安心した源はそう言うと大きくなすきました。



急展開！

---

その時、近くにあった大きな屋外モニター画面に総理大臣が写っています。



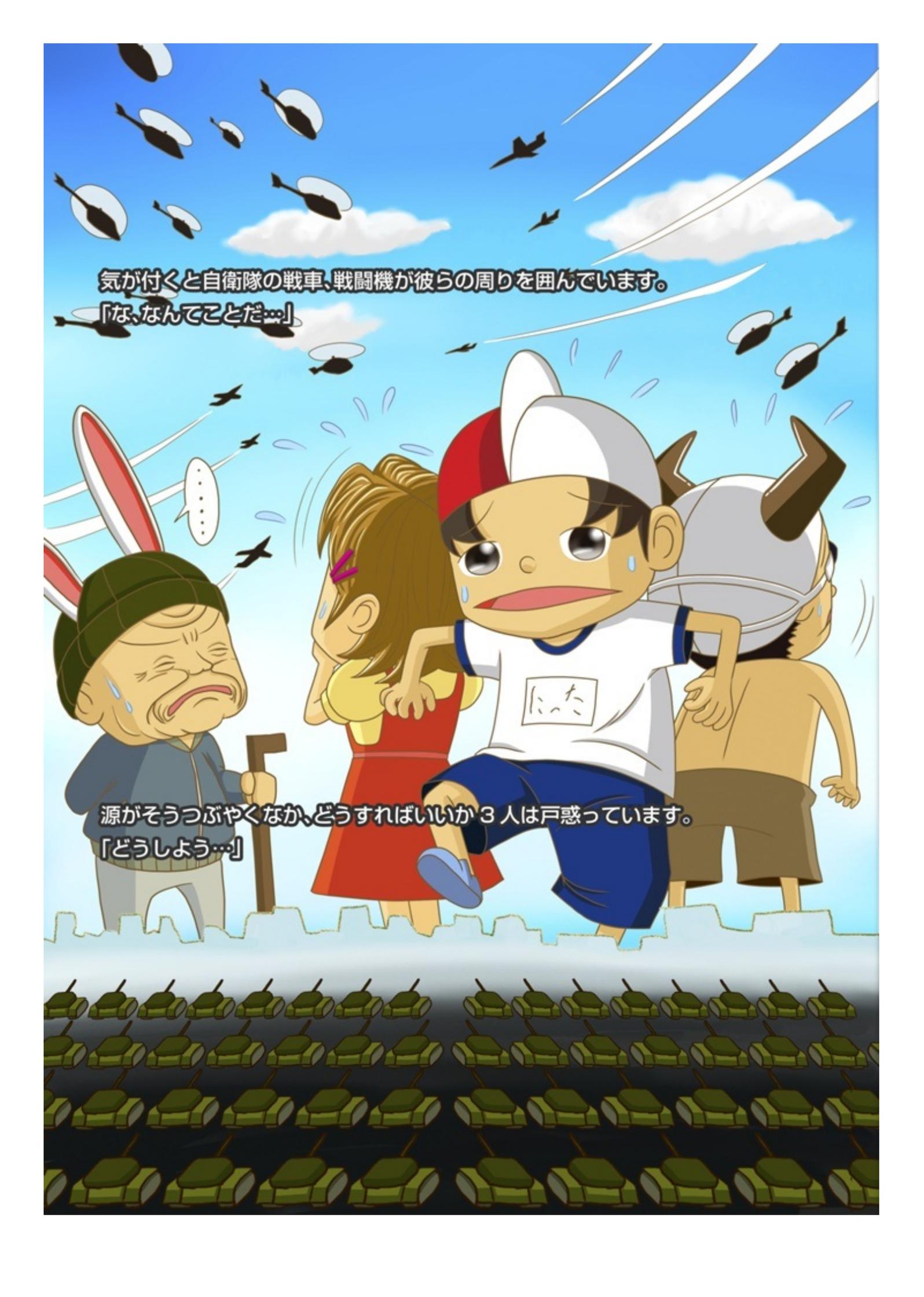
「巨人化した4人に対して、我々は今日まで最善の努力をいたしましたが……………  
法的にも財政的にも限界があり……………  
日本から遠く遠く南にあるムージン島という無人島に移動させることにしました」



3人のイタズラの被害にたまりかねていた政治家が4人をこの国から追い出すこと、  
もし抵抗すれば処分も辞さないと発表しました。

困まれる4人

---



気が付くと自衛隊の戦車、戦闘機が彼らの周りを囲んでいます。

「な、なんてことだ…!」

源がそうつぶやくなか、どうすればいいか3人は戸惑っています。

「どうしよう…!」

また急展開！！

---

すると突然、大型モニターの映像が変わりました。  
テロリスト国家の首領が写って何か話しています。



PAI TAG

どうやら、巨人4人のために困っている日本人のため、彼らをターゲットに  
数百メートルある巨大な核爆弾を発射したことを言っているようです。



だけど、これはただのこじつけであって、  
本当は日本に対する宣戦布告であることは明らかです。  
このまま爆弾が落ちてしまったら街どころかこの国が滅びます。  
突然のことで国中みんな大混乱です。

核爆弾をとめちゃおうよ

---



国中が混乱する中、ケンジくんは何かをひらめいたようです。

「ねえ、核爆弾を止めちゃおうよ」  
「どうやって？」

「東京タワーに登って、  
落ちる前に受け止めるんだよ」  
それで、何とか元の場所に返すんだよ。」



と言いながら、お手製のマントを身に付けてはりきるケンジくん。

「……………」

啞然とする他の3人

「無謀すぎるが、時間が無い。それでやってみるかぁ…」

と、とめた!!!!!!

---

東京タワーに登ると大きな核爆弾が来ました。  
とても大きな核爆弾です！

ケンジくんたちは素手で、源は杖に仕込んであった刀で突き刺して  
何とか動きを止めました。



なんと、刀の刺さったところが良かったのか、刀で操縦することが出来ました。

よし、返しにいくぞ！

---



「よし、これに乗って返しに行くぞ！」  
そういって核爆弾にのって飛んでいきます。  
源は核爆弾に乗らず彼らを見送りました。

絶対に手を離さない3人

---

ものすごいスピードで飛ぶ核爆弾。

「うわああああ~~~~」

「ぶるああああ~~~~」

「ぎゃあああああ~~~~」

「もうだめえ~~おちちゅよ~」

「がんばれ、みんなの役に立つことをするって決めたぞ!!」

「は~な~す~も~ん~かあああああ~~~~」

今にも振り落とされそうな3人  
でも、人の役に立つことをすると決心した彼らは絶対にその手を離しません。

核爆弾の返却作戦成功！！

---



そして、ついに核爆弾の返却作戦成功！

核爆弾はテロ国家の首領のいる邸宅に落ち大爆発！

その爆破の勢いで3人ははるか遠くへ飛ばされました。  
3人はどこへ行ってしまったのでしょうか？

リエちゃん発見！まるおくんは...

---



数日後、日本海上で気を失っているリエちゃんを発見、源が救出しました。  
しばらくは源が預かることになりました。



まるおくんはとある秘境のジャングルに頭から落ちているところを原住民が発見。  
この地に住む先住民にとって神様に見えたらしく、  
神として崇められるようになりました。

そして、ケンジくんは...

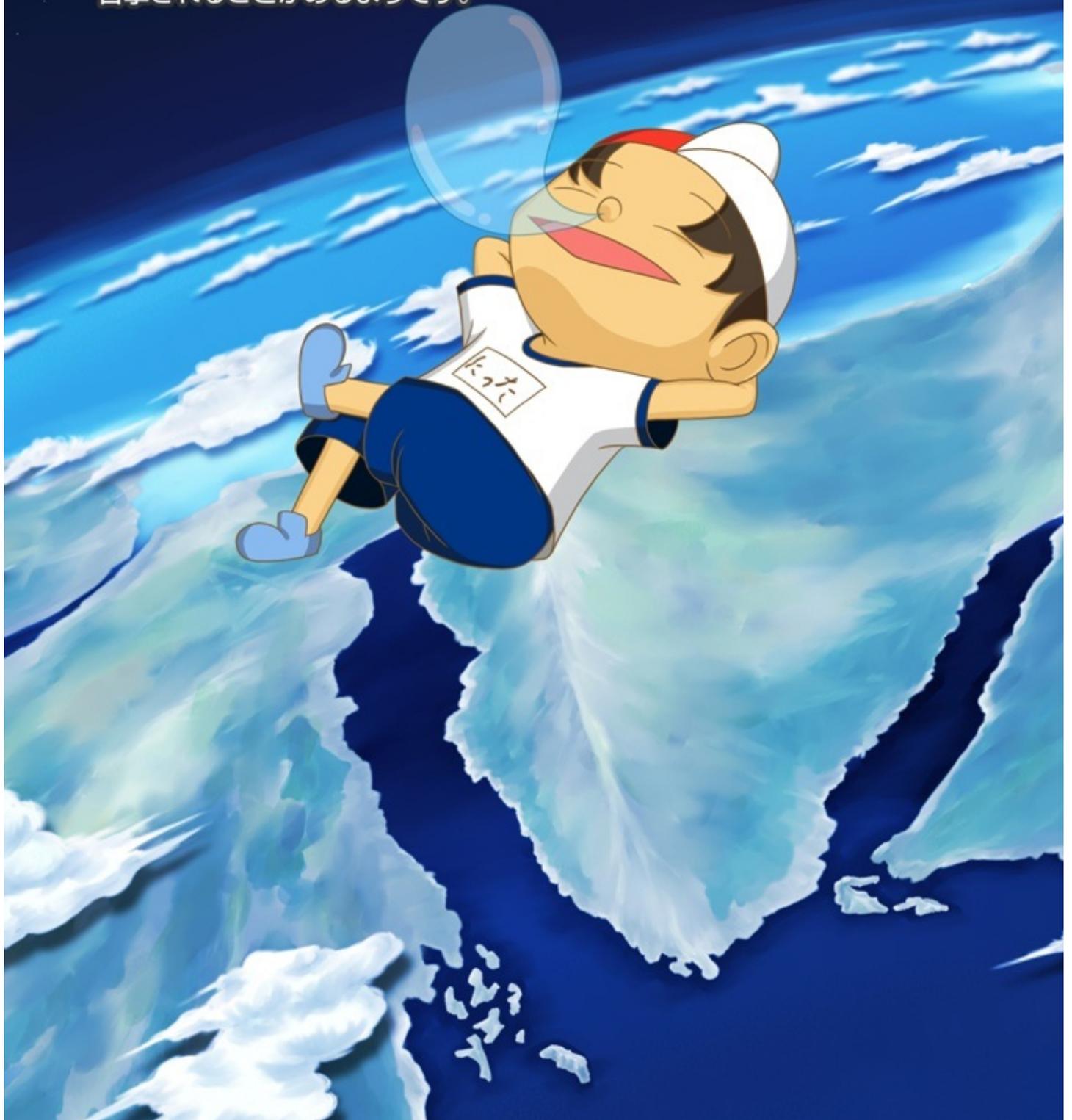
---

ケンジくんはというと、大気圏を超えなんと宇宙へ！

地球の周りをのんきにのんびりとグルリグルリ…。



時々、気象衛星写真などの衛星画像に写ったり、宇宙ステーションの乗組員に目撃されることがあるようです。



4人の勇気は英雄に値する！？

---

その後、彼らの勇気が賞賛され、この国の英雄となり  
ある場所に銅像が建てられた…らしい……



巨人くんの像